

志貴皇子しきのみこ

石走いわばしる 垂水たるみの上うえの さわらび蕨びの

萌もえ出いづる春はるに なりなりにけるかも

(意味)岩の上をほとばしって流れ落ちる滝のほとりに、若々しいわらびが新たに芽吹く春がめぐつてきたことだなあ。

この歌は、『万葉集』巻八の巻頭に「たぐひ権の御歌」と題されている有名な御歌です。春のおとずれを、はずむような心で迎える躍動感にあふれています。